

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

〇ICTを活用した「主体的・対話的な深い学び」を実現させるための授業の実践

吉井小学校
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

| | | |
|------------------|-----------------------|--------------------|
| 学力向上推進員 阿部ひとみ | 委員 校長 小西貴仁 湯浅茂徳 | 教頭 山下知子 日下真子 |
|------------------|-----------------------|--------------------|

校長
小西 貴仁

【小中連携または中高連携における共通の取組】

ポジティブな行動支援を行いながら、言語活動の充実を図り、聴く・話す力を育成する。

【各校の取組状況の把握について】

教員自己評価・学校評価(児童・保護者)・全国学力調査・県ステップアップテスト結果検証・授業研究会等

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|---|--|---|---|---|---|
| <p>○タブレットの配布により、学年の発達段階に応じてICT機器を活用し、日常的に慣れ親しむ姿が見られるようになってきた。</p> <p>●文章の要点を素早く正確に読み取ったり、身につけた知識を既習事項と関連付けて生かし、課題を解決したりする力が、まだ十分身につけていない。</p> | <p>・基礎的・基本的な知識技能を確実に身につけることができる。</p> <p>・パソコンやタブレットを積極的に活用し、学んだ知識を他の学習場面や日常生活に生かすことができる。</p> <p>・文章の概要を捉えて短時間で読み取ったり、必要な事柄を落とさずに、正確に理解したりすることができる。</p> | <p>・定期的に研修会を開いて教師自身のICT活用のスキルアップを図るとともに、児童の発達段階に応じて効果的にタブレットを活用する授業づくりについての研究を進める。</p> <p>・具体的操作を通したり、身近な生活に結びつけたりして理解を深めるよう指導の仕方を工夫する。</p> <p>・『家庭読書の日』の親子読書や学年に応じたお勧めの本の推奨、読書量の見える化等、読書の幅を広げ、質を高める工夫を図り、読書活動を推進し意欲を高める。</p> <p>・「吉井小10の学習のルール」を更に徹底し、聴く力や書く力の基礎を培う。</p> | <p>・目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見付けられる活動に課題が見られたため、毎日の学習の中で、文章と図表の関係をしっかりと把握し確認することができるような活動を大切にしている。</p> <p>・長文読解に課題があったり、質問文が長いとその意図を正確に把握することが難しかったりする傾向があるので、さらに読書活動を推進するとともに、並行読書や関連読書を授業に取り入れ、文章の内容を正確に読み取る力を育てる。</p> | <p>・「吉井小10の学習のルール」の徹底や、読書活動の推進、ステップアップタイム等により、落ち着いた学習に取り組む態度が育ち、基礎的・基本的な知識技能が定着する一助となっている。</p> <p>・タブレットを日常的に使用する習慣ができ、思考の過程を効率よく共有し、全体と比較・検討する学習に生かすことができるようになった。また、言葉だけでは十分に伝えられないことを、写真等の提示により視覚的にイメージさせることで、正確に伝えられるとともに、学習内容の理解につながっている。</p> | <p>・個別差が見られるため、習得した知識や情報を活用し、個別最適な学びを保障する取組が必要である。</p> <p>・ICT機器の活用に関しては、まだまだ研究の余地があり、教職員自身のスキルアップを図るため、更に研修を深める必要がある。</p> <p>・ICT機器の使用法や使いすぎによる健康被害などの弊害に配慮し、安全に正しく活用できるよう、児童や家庭に向けた啓発が必要である。</p> <p>・読書活動に関しては、様々な手立てを講じたが、まだ充分ではないため、読書活動の推進を継続していく。</p> |

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|--|---|---|--|--|---|
| <p>○総合的な学習の時間や委員会活動などでは、自分たちの考えに基づいて活動したり、学習を進めたりすることができるようになりつつある。</p> <p>●多くの情報の中から必要な情報を取捨選択したり、自分の言葉で考えをまとめたりすることに課題がみられる。</p> | <p>・多様な人々と協働しながら学習を進め、他者の話を自分の考えと比べながら要点を聴き取り、自分の考えを広げ深めることができる。</p> <p>・学習をより確かなものにするために、体験したことや考えたことを分かりやすくまとめ、文章に表したり話したりして他者に伝えることができる。</p> | <p>・地域の教育資源を生かし、体験的で探求的な教育活動を計画・工夫する。</p> <p>・多様な生活経験を通して語彙を増やし、体験したことや考えたことを正確に文章で表現する機会を増やす。</p> <p>・ステップアップタイムや給食放送の時間に、簡単な聞き取り問題等を実施し、聴く力を育てる。</p> <p>・発表や説明の仕方のモデルを提示し、個に応じた指導をする。</p> | <p>・条件に即して書いたり、理由や仕方を説明したりする活動に課題が見られたので、毎日の学習の中で、理由を明確にしながら、相手に正確に伝えるように、自分の考えを説明する活動を大切にする。</p> <p>・目的を明確にしながら、調べた内容について、新聞やレポートなどにまとめる活動を、さらに積極的に取り入れる。</p> | <p>・見学や実物の観察、専門家や地域の人々との対話を通して、興味・関心が高まり、主体的に学習に取り組む、理解を深めることができた。また、郷土への愛情や誇りを持つことができた。</p> <p>・新聞づくり等「書く」活動を意欲的に取り入れた。自分の考えを持ち、相手に伝える活動をすることで、思考がまとまり、「書く」活動が円滑になってきた。</p> | <p>・地域教材は、系統的・継続的な単元の構成が必要である。</p> <p>・聞き取りや調べ学習が充分でない児童が見られたので、学習課題の明確化や、協働的な活動を増やす等、考えを再形成する学習の工夫が必要である。</p> <p>・児童数の減少が想定されるため、学年を超えた話し合い等、多様な話し合い活動の工夫が必要である。</p> |

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|--|--|--|--|--|--|
| <p>○自主的に学習を進めている児童は、「学習することは自分の可能性を広げてくれる」と考え、将来の進路と学びとの関わりを理解している。</p> <p>●自主的に行動し、積極的に学習を進めようとする児童が少なく、指示されないと学習を進められないことが多かったが徐々に主体的に学ぼうとする姿勢が育ちつつある。</p> | <p>・自分の知識を広げるため、応用的・探求的な課題に継続して取り組むことができる。</p> <p>・自らの課題を見つけ、それを克服するために自分に合った学習の方法や計画を考え、工夫して取り組むことができる。</p> | <p>・主体的な学習が展開されるように授業を工夫し、単元のめあてを明示したり、導入や展開の仕方を工夫したりする。</p> <p>・「自主学習の手引き」を基に学年に応じたノート指導を行うとともに、モデルとなるノートの例を示すようにする。</p> <p>・ポジティブな行動支援を心がけ、成功体験を増やし、自信を持って意欲的に取り組めるように意欲づける。</p> | <p>・子ども達の興味・関心を高める導入や展開の工夫や、その活動が苦手な子どもへの支援・声かけ等、子どもが主体となり、意欲的に探求的な活動ができる様々な学習の手立てを、さらに工夫する。</p> | <p>・学年ごとに、自主学習掲示コーナーを設け、手本となる例を掲示することで、自主学習への意欲が高まるとともに、自主学習の質も高まった。</p> <p>・グループ活動やペアワーク等、対話を活性化することで、主体的に友達と協働して学ぶ態度が育ち、考えを広げ深める力が育ってきている。</p> | <p>・真面目に根気強く学習に取り組む児童が多く、意欲や学習の質の高まりを感じるができるが、学習意欲が低い児童もおり、個に応じた対応が必要である。</p> <p>・要点を正確に聞き取れていない場面が見られるので、伝え、聞き、考えを共有する活動を更に工夫し、学習の活性化を図りたい。</p> |

令和5年度 学力向上ロードマップ

